

タガメ

Lethocerus deyloffi (Vuillefroy)

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 大部分の生息地で生息条件が悪化

【形態】 体長48～65mm。体は灰褐色～褐色。前脚は強大な捕獲脚となり末端に1個の爪がある。中・後脚は遊泳脚で脛節と跗節に長毛を生じる。口吻は短大。尾端に伸縮自在の短い呼吸管がある。雄には後胸部に1対の臭腺があり、バナナ臭のある芳香を放つ。

【分布】 本州、四国、九州、沖縄に分布する。

【県内の分布、生息状況】 県内各地での記録はあるが、近年の記録は少ない。また、灯火飛来によって記録されたものも多く、分布域を特定することは困難である。

【生息に影響を与えている要因】 水路整備 池沼開発 農業汚染

【特記事項】 昭和30年代前半までは普通に見られた。生息環境の保護保全が望ましい。

【主要文献】

貝津好孝(1998)梁川町でタガメを採集。ふくしまの虫, (16): 67.
 塩田義隆(1993)郡山市でタガメが見つかる。ふくしまの虫, (11): 40.
 鈴木智史(1997)郡山市におけるタガメの採集記録。ふくしまの虫, (15): 36.
 水野谷昭三(2000)西郷村でタガメ確認。ふくしまの虫, (19): 54.
 三田村敏正(2000)中通りにけるタガメの採集記録。ふくしまの虫, (19): 55.

カワラハンミョウ

Cicindela laetescripta Motschulsky

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 大部分の個体群で個体数が減少 大部分の生息地で生息条件が悪化

【形態】 体長14～17mm。上翅は緑銅色をしており、白色の斑紋を有する。福島県内には、本種の他に8種のハンミョウが生息しているが、上翅の白色斑紋の形状から、他種との判別は難しくはない。

【分布】 北海道、本州、四国、九州に分布しているが、海浜環境の悪化により、全国的に減少傾向にある。

【県内の分布、生息状況】 海浜性のハンミョウで、もともとの個体数が少ない。今のところ分布が確認されているのは、いわき市の海岸部だけである。近年、個体数がさらに減少しつつある。

【生息に影響を与えている要因】 砂浜への車両の乗り入れ

【特記事項】 海岸の砂浜環境を保護するために、砂浜への車両の乗り入れをしないことが望ましい。

